

〔赤嶺奈津江議員 登壇〕

○6 番 赤嶺奈津江さん 一般質問最終日一番手、質問をさせていただきます。今回は、今年から小学校 6 年生国語の授業で町の幸福論という単元が初めて入ってきたということで、先日、子どもたちに 1 回講演を済ませて、その後、子どもたちからプレゼンテーションを受けました。そのなかで 10 年後の南風原町に自分たちが住むには、こういう町であって欲しい、人と人のつながりを子どもたちになり考えたものに私も共感できるものがたくさんありましたので、その中から 4 点質問をさせていただきます。

1. 子どもたちに地域で活躍する場を（1）子どもたちが地域で活躍できる場や将来の南風原町を考え提案できる場として、子どもまちづくり会議ができないか。（2）当町の特産物を使った料理コンテストを、子ども会や字、支部対抗で行うことはできないか。

（3）スポーツ以外でも町内の小学生が交流できるイベントを企画できないか。（4）異年齢交流のできる施設はできないか。

2. これからのまちづくりについて（1）南風原町は、4 小学校区あるが、その校区単位で校区まちづくり推進事業を行うことができないか。（2）10 年後の自治会運営について、町、各自治会、住民で考える委員会を設置できないか。

3. 地域活性化の担い手となる人材育成を（1）地域活性化の担い手を育成する「ふえーばるまちおこし塾」ができないか。

4. 沖縄県工芸振興センター跡を交流型宿泊施設に利用できないか（1）照屋区にあった沖縄県工芸振興センターが豊見城市に移転する。その跡地を利用し、交流型宿泊施設等として利用できないか。以上 4 点、よろしくお願いします。

○議長 宮城清政君 副町長。

○副町長 国吉真章君 それでは、質問事項 1 点目の子どもたちに地域で活躍する場を（1）についてお答えします。現在、町では第五次南風原町総合計画の策定に向け取り組んでおります。その策定にあたり広く町民の意見を取り入れるために、まちづくり住民会議を立ち上げ、毎回活発な意見交換及びご提案を賜っているところです。子どもたちの対象としては、小学校の高学年と中学生からまちづくりに関するアンケートを実施してきたところですが、ご質問の子どもまちづくり会議についてどのような取組で開催が可能なのかどうか検討してまいります。（2）についてです。子ども会育成連絡協議会、PTA、女性連合会や関係部署と協議してまいります。（3）についてです。子ども育成連絡協議会でリーダー宿泊研修、低学年スポーツ大会、宿泊研修、子ども会まつりを実施しております。（4）についてです。新たな交流施設整備の計画はありませんが、中央公民館やちむぐくる館、また各自治会の公民館等の活用ができるよう調整をしてまいります。

質問事項 2 点目の、これからのまちづくりについて。（1）と（2）については関連い

たしますので一括で答弁いたします。南風原町まちづくり基本条例第 24 条の規定において、町は町民がまちづくりに参画する機会の確保と充実に努めなければならないとあり、また第 26 条第 2 項には町は地域コミュニティの自主性を尊重し円滑な活動ができるよう連携に努めなければならないと規定されております。ご質問の地域単位のまちづくり委員会等の組織化の動きがあれば、先進事例も研究し、地域特性や自主性を尊重しながら支援してまいります。

質問事項 3 点目の、地域活性化の担い手となる人材育成をについてお答えします。「ふえーばるまちおこし塾」については、現在行っている住民会議の延長線上で展開が可能か、あるいはまったく新規に取り組んでいったほうが良いのか先進地の事例も調査・研究のうえ検討してまいりたいと思います。

質問事項 4 点目の、沖縄県工芸振興センター跡を交流型宿泊施設に利用できないかについてお答えします。現工芸振興センターは、施設の老朽化などにより十分な機能を果たすことができているという判断から、平成 30 年に豊見城市に移転すると聞いております。県工芸振興センターに確認したところ、この施設は昭和 49 年に建築され、契約終了時に更地にして返還する契約であるとのこととあります。施設の老朽化などもあり、ご提案の宿泊施設としての利用は難しいと考えております。以上であります。

○議長 宮城清政君 6 番 赤嶺奈津江議員。

○6 番 赤嶺奈津江さん ありがとうございます。それでは 1 問目から再質問させていただきたいと思います。現在、子どもたちは 4 年生から南風原町のことを学ぶということで、学校の授業のなかで地域を知ることが課題と言いますか取り組まれています。そんななか 6 年生の国語の授業で、地域の課題、南風原町の課題は何かということ子どもたちに質問されました。11 月ですか議会の総務民生常任委員会で視察に行きました福岡県の糸島市では、自治会加入率が 90 パーセント以上、自主防災組織立上率が 100 パーセントということで、すごく地域力の強い地域を視察してまいりました。そのなかで、見てみると、やはり地域のことは地域で考えることが大事だと、大人になってから考えるのではなくて、子どもの時から地域のことを考えて将来どういうふうにしていきたいかイメージをしながら子どもたちがかわっていくことが大事ではないかと感じました。子どもたちの授業を見ますと、プレゼンテーションのなかでコミュニティのあり方と言いますかコミュニティ自体を知らないとか、自治会って何か、みたいなレベルの話になりまして、子どもたちのなかではそんなに意識して公民館活用とかそういったものがないのかと感じたものですから、子どもたちが集まってできることがないか、そういった話合いをする場があったらもっと将来、また今の時点で南風原町は自主防災組織の立ち上げがまったくされていない状態ですので、これからの課題として、今の子どもたちから自主性を持たせて地域で活躍する場をどれだけ持たせるかをやるべきではないかということ子どもまちづくり会議

ができないか提案しました。子どもたちがプレゼンテーションしてくれましたが、どういうふうにしたいという意識があるのですね。先生たちに話を聞きますと、最初の授業のなかではハード部分だけを取り上げてこんなのがあったいいのに、ただで遊べる公園があればいいといったことから、人と人とのつながりということを考え始めて、将来の自分の居場所とか役割とか、それが地域にあれば住みやすいのではないかと。自分が大人になってこの地域で子どもを育てるとか、結婚して生活して社会貢献をすることを考えたときには、人と人とのつながりであったりそういったことを大事にして、隣近所知り合いになっているほうがもっと楽しいのではないかと。とても良い提案がたくさんありました。ですから、子どもたちは発言する場があればすごく良い提案をする。大人はある意味、縛りが出てきている部分がありますので、これはできないよとかこれは無理じゃないかとか先入観で考えると、子どもの中から理想を掲げることは大事ではないかということ、まちづくりに関しての発言ができる場をぜひ作って欲しいもりたいことでの提案です。アンケートは取っているとのことですが、やはり抜粋ですし、発言できない子がそういった表に出て自分はこういう所だったら住みたい、こういうふうにしたいという発言の場は行政のなかでも考えてもらえたらと思います。どのような取組ができるか、開催が可能か検討していくとありますけれども、今種がやっと蒔かれて芽が出始めた時だと思うのです。4年生の時から地域のことを知るということで勉強し始めて、6年生ではプレゼンテーションするまでにくるということは、やっと芽が出始めてきている時だと思いますのでぜひ取り組んで欲しいと思います。1問目は全体にかかわることですので、改めて最後に質問させていただきたいと思います。

(2) も子どもたちからの提案で、先ほど言ったように自治会とのかかわりがまったくない子、子ども会とのかかわりがまったくない子が実際います。なかには情報格差で広報誌もちゃんと読んだことがないとか、分からない子も結構いたのです。ですから、保護者の方にも自治会に加入しているのかとか自分たちの公民館はどこなのか聞いてご覧ねという話もしたのですが、授業、帰りの会が終わると4時半、5時ぐらいまでには帰らないといけなくなると、地元に戻る時にはコミュニティセンター、公民館は閉まっている時間帯になっているので、地域で活躍する場がない、地域とのかかわりが持てない。というなか、子どもたちからの提案で、個人へのレシピ大会などはあるのですが、地域で何か一つを成し遂げることをすればお年寄りや小さい子たちを含めていろんなかかわりができるのではないかと。ということで、料理コンテストをやってみないかということがありました。野菜の剥き方、切り方、食感のあり方、高齢者の方々と話をしながら、こうやってはどうかああやってはどうかと話をしながら成し遂げる。一つのことを達成した後に賞がもらえるとなると、目標ができてもっと一つになれるのではないかと提案がありました。答弁のなかでは子ども会、PTA、女性会とありましたけれども、ぜひ自治会や学校にも投げ掛けてこういったコンテストをやるけれどもグループで出してみないかというような提案とかそういったことができないかと思うのです。コンテストや観光系で産業振興課であ

るかも知れないのですけれども、将来の人材だったり地域力を高めるためには横の連携が必要になると思うのですね。そういったところで執行部側の対応としてどういうことができるのかお聞きしたいと思います。また、教育部局としてもどういうふうにかかわりができるのか、提案ができるのかお聞きしたいと思います。よろしくお願いします。

○議長 宮城清政君 総務部長。

○総務部長 新垣吉紀君 難しい質問でございました。議員の趣旨は、字、自治会の活性化だと理解しての答弁ですが、ある地域では夏休みに、直接の料理コンテストではないのですが地域の行事に子どもたちが率先して、子どもたちだけの出し物があるとかそういったことで取り組んでいる場合もあります。切り口はどうであれ、いずれにせよ親がよく行っている人はだいたい子どもも見ます。その逆もあります。どういった切り口であるにせよ、基本的には楽しいから人は出かけて行くと思いますので、具体的に女性会とか老人会とか地域の皆さんとどういったかかわりを持って今後取組を進めるか、なおかつそういう付き合いが広がることによって遊び場のあり方、行事のもち方、そういったことも子どもたちとコミュニケーションが取れていくのかということですので、地域には地域の特性、これまでの歴史等ございますからそれはぜひ地域で率先してやっていただきたい。それで、われわれはこういった研修会が必要ですよとあれば名人人材バンクがございます。また、こういった施設を字で使いたいので貸してくれとか、人的支援、施設面の支援、さまざまな角度で後方支援は最大限に取り組んでいきたいと考えますが、具体的に何というイメージが今持てないです。とにかく自主的にやっていただければ、どんどん支援していきたいということで答弁とします。

○議長 宮城清政君 教育部長。

○教育部長 新垣好彦君 ただいま総務部長から総括的に子どもたちとのかかわりということでの答弁がございましたので、そのとおり町としても取り組んでいくべきだと考えております。先ほど具体的な質問がありました料理コンテストですが、これまでの子ども会だったり活動の場でのアイディアは初めて聞きましたので、そういったこと含めてぜひ学校、地域とタイアップして、子ども会、PTA、女性連合会とのタイアップも必要ですが、各々行事を持っておりますのでそこにまたその行事を入れていくと今でも手いっぱいだという視点で団体はなかなか手伝いができないこともございます。子どもたちと保護者、地域ともタイアップして提案等があれば教育委員会もバックアップしてその事業ができるようにと考えております。

○議長 宮城清政君 6 番 赤嶺奈津江議員。

○6 番 赤嶺奈津江さん ありがとうございます。総務部長からもバックアップに頑張りますとあり、教育部局からもそういう言葉がありましたので、ぜひいろんなチャンスを生かして、また照屋仁士議員からスクラップ&ビルドとありました行事の見直し等もあるかと思しますので、どうやったら人が集まるのか。実際には地域力が強い所であれば地域からの声で事業ができるはずなのです。地域力が弱まっている今だから今のうちに地域力を強くするための行事の提案ですので、ぜひ前向きに捉えて行事のあり方も考えて、一つの行事のなかに組み込むことも考えられるかも知れませんし、まつりのなかの一つのイベントとして組み込むとかそういったこともできるかも知れません。子どもたちは何気ない提案のなかに、自分たちが作り上げるという言葉はずっと口にしていたのですね。かかわることが嫌ではないわけです。なんで参加率が悪いかまで子どもたちは話をしていましたので、自分たちが物事を作り上げるとか難儀をすることに対して最初は抵抗があるかも知れませんが、今これだけ地域のことを考える、せっかく学校の授業のなかにそういったことが入ってきているわけですから、やっと子どもたちが考えるような時が来ているわけですから、その時期を逃さず、ぜひ子どもたちが活躍する場、異年齢交流ができる場という事業をして欲しいと要望したいと思います。

(3) にいきます。スポーツ以外でも町内の小学生が交流できるイベントはないかということであります。南風原町はスポーツに特化したところがありまして、駅伝だったり小中陸上だったりスポーツ系はかなり活発だと思うのですね。島尻地区でもかなり良い成績ですけれども、スポーツが苦手な子も多いですので、そういった文科系の子も参加できる事業ができないか保護者からも声がありました。今回、うちの娘が平和交流に参加させていただいて、文化的な交流のなかで4校の子どもたちと知り合うことができとても充実してとても素晴らしい体験だったとありました。平和学習だけではなくて人との交流というのがいかに大事か本当にしみじみと感じるような事業だと、私も町にかかわる仕事で手前味噌ですけれども良い仕事でしょうと自慢してしまったのですが、やはりそういったスポーツ以外でも子どもたちが交流できるイベントをぜひ考えていただきたい。答弁では同じなのですね。子ども連絡協議会だったり、子ども会インリーダー研修だったり、情報格差があって情報がもらえない子はなかなか参加できないようなイベントになってしまっているのですね。ですから、無条件に子どもたち皆ウェルカムだという事業にして、交流する場、高学年に限ってですとかそういったことができないかということ提案です。オセロとかそんなに難しくないゲームのトーナメントをやったりそういった対戦型でもいいですし、待っている間に横に座っている子とおしゃべりできるような、本当に他愛のない交流でもいいと思うのですね。必ず報告書まで仕上げなければいけないような内容ではなくて、お互いが交流できる、町内にいる皆と友達になれるような事業ができたなら、どここのイベントで会ったよねと会話ができるぐらいのイベントが持てないかという提案です。必ずしも子ども会とかそういったところに投げ掛けるのではなくて、全体をとおしたイベ

ントができないかどうか、ぜひ検討していただきたいのですがいかがでしょうか。

○議長 宮城清政君 教育部長。

○教育部長 新垣好彦君 ご提案ありがとうございます。スポーツ系だけの子どもの集まりではなくて、今文科系の話もありましたけれども遊びをとおすような集まり、全体的呼びかけについては子ども会だったりそういった所でやっていますが、各支部の子ども会をとおしてやっている現状もありますので、なかなかそういった面では全体的に行きわたらなかつたところがあるのではないかと思いますので、今後事業主体をどこにするというところもございますので、どういったことをしたら子どもたちが集まって、その趣旨に合うような 4 小学校の子どもたちが集まって校流ができる場をぜひ考えて企画していきたいと考えております。

○議長 宮城清政君 6 番 赤嶺奈津江議員。

○6 番 赤嶺奈津江さん ありがとうございます。前向きな答弁をいただきましたので、ぜひ文科系の子どもたちと言いますか、分け隔てなく、得意だから参加できるのではなく皆が参加できるようなイベントを考えていただきたいと思います。

それでは、(4) 異年齢交流できる施設ができないかということで、中央公民館、ちむぐくる館とか各自治会の公民館が活用できるように調整してまいりますと答弁いただきましたけれども、ちょっと遠いと子どもだけで出かけることが厳しい場所だったり、公民館も先ほど言いましたように時間が限られていますので、ぜひ子どもたちとお年寄りなどが交流できる場、また地域では子育てサロンをやっている所もありますけれども、そういった場所に子どもたちが参加できるような内容の事業を提案してもらいながら、子どもたちが地域で異年齢交流できる場を作っていただきたいことをお願いしたいと思います。習い事をやっている子も多いですし、なかには小学校から受験という子もいて子どもたちはなかなか忙しいと思うところがあります。本当は交流してどこにどういう人がいてということを知りたいんだよねと言っていましたので、ここに限ってというのではなくて、そういう機会をできるだけもっていただけるようお願いしてこの質問は終わりたいと思います。

問 2. 校区まちづくり推進事業を行うことができないかですけれども、先ほど言いました福岡県の糸島市に行きましたら、1 市 2 町が合併したこともあるためですか市長の公約で市民税の 1 パーセントをこの校区まちづくり推進委員会のなかの実践活動に活用する方針を出されて、年間 4,000 万円の予算を付けて事業をされているそうです。その校区まちづくりでは、10 年間のまちづくりを校区ごとに区長会で練り上げて、この 10 年間でどういうふうにしたら町が良くなるかを計画して、年度ごとそれに向けてのいろんな事業を考え

て市に補助金申請をして事業をやるということです。この補助事業が実践活動で 90 パーセント補助。1 校区 3 事業までということで 1 事業 500 万円が入っているすごく大きな事業になっています。防災企画関係整備は町が一括交付金も使ってやっていますけれども、そういった整備も校区ごとに何が必要か検討してその予算のなかから整備していつているそうです。その整備については補助率 95 パーセントで、5 パーセントは校区で負担してやっています。ですから、地域のことは地域で考えて活動するというで、地域がすごくまとまっていると感じました。そのこともあって自主防災組織立上率 100 パーセント。その土台には、自治会加入率が 90 パーセント以上 95 パーセントとありましたので、そういった地域のことを自ら考えていくことが大事なのかと感じました。なぜできないかを考えるとき、やはり地域力が弱まってきている所、特に南風原は海もないですし津波もないんじゃないかという安心感もあると思うのですが、だからこそ有事の際、災害の際には南風原町に逃げて来る方がいらっしゃるかも知れないのですね。そういったとき、地域の住民が自分たちに何ができるのかを前もって考え、こういったときにはこういうことをしようと考えることが大事ではないかと思ひます。また、校区で全然違ふと思うのですね。問題点と言ひますか課題はその地域の特性、人間のかかわり方はその地域ごと違ひますので、私が住んでいます新川の自治会加入率もアパートを含めると 50 パーセントないぐらいになってきていますし、反対に翔南校区側、与那覇だとか前から行事がある所についてはまだ自治会加入率が新川よりはいいのかなと感じます。その地域に合った課題解決をするために、地域で考える機会も大事ではないかと思うのですが、行政として積極的に支援してまいりますとのことですが、やはり地域は情報法収集の手立てがそんなになんと思うのですね。行政側からこういう事例もありますよどうですか、勉強してみませんかという投げ掛けも大事だと思うのですが、答弁のなかではまちづくり委員会や組織の動きがあればと言うように動きを待つような答弁になっているのかという点から、先に行政側から動く考えはないかどうかをお伺ひしたいと思ひます。

○議長 宮城清政君 総務部長。

○総務部長 新垣吉紀君 福岡県糸島市の資料を見せていただきました。住んでいる方には住んでいる方の地域感というのがあると思ひます。私の感覚で、果たして南風原が校区単位で価値観が共有できるのか、隣の字は隣だけれども結構違ふよなど、課題とか基本的な行事とかも違ふなど、私もここで生まれ育って感じます。ですから、南風原には何が合っているのか研究していく必要があると思ひます。受けの対応でしょうということではあるのですが、何らかの例えば区長会とか地域のリーダーの皆さんとまちづくりについて語り合ひませんかとわれわれも情報提供できますよということでしたら、以前にまちづくり会議がございました。ほぼハード面だったと思ひますけれどもありました。社会資本が急激に進んだ時に、それぞれの地域が今後うちの地域はどうするのだろうと、幹線道路が通

って分断されるよとかそういった危機感があってそういった組織ができたと思うのですが、それぞれの地域で出前講座の制度もございます。ですから、一緒になって本町のまちづくり基本条例、最大限に自主性を生かしながら、なおかつわれわれも情報は提供しながら、区長会、ざっくばらんななかでもよろしいと思うのですが、そういったことでもいろんな提案もしつつ受けつつ、地域に合った本町に合った地域づくりが必要かと考えています。

○議長 宮城清政君 6 番 赤嶺奈津江議員。

○6 番 赤嶺奈津江さん ありがとうございます。地域に合ったまちづくりをとということですので、提案と言いますか自主性だけを期待するのではなくて町からも働きかけをしてもらって、子どもたちが言うように自分たちが将来住みたい、ずっと住み続けたいと思えるようなまちになるよう町民も行政も皆かかわりながらできたらいいなと思います。ぜひ積極的にかかわっていただくことをお願いして次の質問にいきたいと思います。

これからのまちづくりについて、10 年後の自治会運営について、町と各自治会住民と考える委員会を設置できないかということで質問しましたけれども、自治会はここに含まれるはずだけれどもなかなか情報がいついていない地域であったりそういうことも多くなってきているかというところと、またマンション等も増えてきて自治会にかかわっていただいていないような実態もあるわけですから、今後どういうふうにしていくか意見を聞く場と言いますかどのようにしていくか短期的にもつのではなくて長期的に定期的に話ができる場がなければいけないのではないかと思いますけれども、先ほど答弁であったように持ち掛けるだけではなくて町全体として考える場も必要だと思いますけれどもいかがでしょうか。

○議長 宮城清政君 総務部長。

○総務部長 新垣吉紀君 全体としての地域づくり。われわれは区長会を月に 2 回やっておりますなおかつ県外への宿泊研修等々もございます。となりますと寝食を 2、3 日共にするなかで、地域の活動のあり方とか結構違うやり方でなさっていることがございます。コミュニケーションの取り方としては、自治会長の皆さんなのでうまく連携は取れているのではなかろうかということがございます。地域の代表である区長、自治会長の皆さんをとおしてでも、まちづくり全体としてはどういったことが必要かということで、前年度でしょうかこれは事業ではなかったのですが各地域に自治会に入りましょうという横断幕がございます。地域の面積、人口等で配布枚数は違ったのですが、皆さんが意見を出し合って横断幕を作って、今月はこの地域で自治会加入促進月間だと町が一斉に張るとか、そういった小さな取組かも知れませんが、皆さんの意見も集約しつつ、今後も共通のま



ちづくり課題解決としては行政も一緒に取り組んでいく必要があると考えます。

○議長 宮城清政君 6 番 赤嶺奈津江議員。

○6 番 赤嶺奈津江さん ありがとうございます。自治会でも場所によっては広すぎて手が回らないところだったり、新しい住民の方が増えてきて加入の意識がなくて、新川でも地番が宮平だったり兼城だったりという所がありますので自分はどこの自治会に入ったらいいのか分からない、なかにはコミュニティセンター、自治会公民館がどこにあるかも分からない方がいらっしゃるのですね。そういった転入で入ってこられた方への窓口として役場の役割は大きいと思いますので、情報提供もしっかりしていただいて、区長たちをメインに考えていらっしゃるようではございますけれども、ぜひそういったところに関わっていただきたいと思います。また、新しい住民の方は自治会のメリットさえも分からない、なんで入らないといけないのかと言う方もいらっしゃいますので、自治会加入の横断幕をしてもなんでこんなことをしているのか、ぐらいにしか捉えられないかも知れません。ぜひ自治会とのかかわりにはどういうものがあるというような提案ですとか、自治会加入率以外にも地域にどういうことができるのかを考えて行動を起こしていただきたいことをお願いしたいと思います。

質問 3 番。地域活性化の担い手となる人材育成をと提案させていただきましたけれども、研究・検討してまいりたいと答弁をいただきました。10 年前ですか、読谷ではゆんたく会議といったものがあつた時には、そこで育てられた人材が今活躍しているとかそういった事例もありますし、すぐに役立つ人材ではなくて、先ほど提案させていただいた子どもたちがプレゼンテーションをしたのもこれで終わるのではなくて、継続して活躍の場があれば、将来南風原を背負っていくような人材に育っていくのではないかと考えての提案です。南風原をどういうふうにしていこうか授業のなかだけではなくて地域をどういうふうに興していこうかと考える若者を育てていけば、皆に自慢できる南風原でいられるのかと思います。ぜひ、先ほどの子どもたちのまちづくり会議からはじまってずっと定期的に計画できるような、人材育成に関して長期計画できるような内容ができないかという提案です。どうやってかかわっていいのか分からない青年たちもたくさんいると思うのですね。なかには青年会自体も休眠状態でなかなか活動できない子たちもいますし、そういった地域のなかから気持ちがある子どもたちを引っ張り上げて人材育成することは大事なことだと思うのですが、町として調査・研究をするとのことですが、人材育成に関して長期的に考えるという点ではどういうふうにお考えでしょうか。

○議長 宮城清政君 総務部長。

○総務部長 新垣吉紀君 最初のご質問で総合計画を策定するまちづくり住民会議がござ

います。広く公募をして、さまざまな年齢と業種の方が参加してまちづくりに貢献していただいています。そういったような入口でもよろしいかと思imasので何らかの意見を言いやすいような会議、定期的、または不定期でもいいかと思imasので、この総合計画のまちづくり住民会議が継続して、いつでもメンバーが入れるようなかたち、年齢等も広くというものも少し工夫しながら、ちょっと研究してみたいと思imas。

○議長 宮城清政君 6 番 赤嶺奈津江議員。

○6 番 赤嶺奈津江さん ありがとうございます。かかわることが当たり前になれば、だいぶ募集をかけたときの参加率が高くなりますし、若い年齢層も保護者がかかわっていたから自分もかかわってみたいとなってくるかも知れません。ぜひ継続できるような環境を整えていただきたいと思います。これまで質問した 3 点は、すべて人材育成や地域力を強くするための質問でありますけれども、前提が今回の小学生からのプレゼンテーションでありました。実はほとんどが子どもたちからの提案と前もっての資料作成のなかで私から提案した部分もあったのですが、子どもたちからそういった提案があるなかで、やはりこういった提案をする場、窓口があつたらもっといいなと思ったのです。実際こういった提案、子どもたちが話をしたりプレゼンテーションをしたり授業を考えるなかで、教育部局と総務部側と横の連携を取ってもらってぜひ良いイベントをもって欲しいと思うのですが、この 3 点についてぜひ前向きな答弁をいただきたいのですがいかがでしょうか。

○議長 宮城清政君 総務部長。

○総務部長 新垣吉紀君 子どもたちについての地域を意識できるような行事、イベントとのことでございます。先ほども教育委員会からもございましたが、いろいろなイベントがかなり多ございまして、その辺も整理しながら、以前からもございますようにスクラップ&ビルドとか必要性に応じてですね。どうしても教育委員会のほうが子どもたちは取っつきやすいということもございまして、連携できる部分は大いに連携して、新たな行事なのかこれに変えるのか含めてこれからの検討課題だと思imas。

○議長 宮城清政君 教育部長。

○教育部長 新垣好彦君 これまでの議員からの提案は、最初の子どものまちづくりに関する授業で、それをプレゼンで表していくという視点での提案でしたので、こういうことをくみ取って、先ほど総務部長からもございましたように教育委員会としてできる、学校ができる、それから町として全体的にできることを網羅して取組ができるよう部内で

も調整をして、庁内で連携を取ってまいりたいと思っております。

○議長 宮城清政君 6 番 赤嶺奈津江議員。

○6 番 赤嶺奈津江さん ありがとうございます。この提案をもらったとき、学校公開日に提案したらいいのではないかとということだったのですが、授業をそこまで引っ張れないということで、子どもたちは町長にぜひ聞いてもらいたいと言っていました。教育長はその時にお見えになられていましたが発表はできないので、ぜひトップの方々にも自分たちの声が提案できるような場があればいいなということでした。私は北丘で授業をしましたが、教科書は島尻地区統一ですので、全体でそういうことがあることを理解していただいて、町長にも子どもたちの未来について子どもたちの意見を拾う場、どういう活躍ができるか、その持ち方など意見を伺いたいのですがどうでしょうか。

○議長 宮城清政君 町長。

○町長 城間俊安君 ありがとうございます。私は子どもたちからも地域の自治会加入率が低いということをどこの自治会からも言われております。そして地域の公民館は子どもたちも利用されています。お父さん、お母さん方は自治会に加入しているかしていないか、していない子どもたちもいらっしゃいます。しかし、加入した人たちが加入していない人たちの分までも光熱費を負担していることにつながりますから、子どもたちが積極的に参加して、お父さん、お母さん、自治会に加入していますかとむしろ子どもたちから提言すれば大人がハッとする部分もあろうかと思えます。地域の防犯灯においても、草刈り作業においても皆でカバーし合っていますので、何も恩恵がないとおっしゃる方もいるが実際は目に見えない恩恵を受けています。そういう面では工夫することも大事だと思います。私たち大人も子どもたちをどう地域に巻き込んでいろんな行事に参加させることができるか。子どもたちの参加が多くなれば、親も出てくるし、そこで親が自治会加入をしていないければ心苦しい部分も出てこようかと思えます。そういう相乗効果をもたらすのではないかと思いますし、子どもたちは無限の可能性を持っておりますので、いろんな面で子どもたちに問題提起をしてもらい、私たちは地域で受け止めて、子どもたちが考えることに理解できない部分もあるでしょうがハッとする部分もたくさんありますので、そういう部分は大いに取り入れていくことも大事ではないかと思えます。子どもたちを参加させてそのノウハウをいただきたいと思っております。本当にありがとうございます。

○議長 宮城清政君 6 番 赤嶺奈津江議員。

○6 番 赤嶺奈津江さん ありがとうございます。これも子どもたちの活躍になります

ので、ぜひ子どもたちの活躍を生かせるような事業、また環境を作っていただきたいことをお願いしてこの質問を終わります。

最後になりますけれども、工芸センターの件ですが、昭和 49 年に建築されてたぶん耐震も難しい部分もあろうかと思えます。そうであれば跡地を利用してですから、必ずしもこの施設を利用してではなくて、地主と交渉してということであり、大きい土地を確保するのは小さな南風原ですので難しいと思えますけれども、そういった跡地を地主と交渉していろんな事業展開ができないかという交流型の宿泊施設ができないかの提案です。先日ありました子ども食堂ですとかいろいろところで交流型の施設は必要になってきていますので、ぜひそういったところからも検討されてはどうかと思えます。今後、町と県では立場も違いますし地主との交渉もそれぞれ感触も違ってくるかと思えますので、前提が何に使うかでも変わってくると思えますので、ぜひ利用が難しいという判断だけではなくて交渉の余地があるのかなのか。まったく考えていないのかどうかお伺いしたいと思えます。

○議長 宮城清政君 経済建設部長。

○経済建設部長 真境名元彦君 今回のご提案、大変ありがとうございます。南風原町は観光事業を基に南風原町発展をさせるという重点目標も掲げておりまして、観光協会の設立も行っております。そのためにはやはり町内の宿泊施設も重要な課題となっておりますことから、さまざまな検討もしているところではありますけれども、大型の宿泊施設となりますと一番問題になるのがその用途でございまして、そのためなかなか前進していないのが現状でございます。ただいまご提案の沖縄県工芸振興センターにつきましては、現在の建物を再利用することは大変難しいと思えますけれども、更地にした段階で地権者の意向もございましてうまくマッチングができましたら行政としてもバックアップして、大型ではなくても中堅でも宿泊施設ができるように私どもも検討させていただきたいと思っております。

○議長 宮城清政君 6 番 赤嶺奈津江議員。

○6 番 赤嶺奈津江さん ぜひそのままにするのではなくて何か地域のためになるものができるよう、なかには協力するとおっしゃる地権者もいらっしゃると思えますので、ぜひ交渉していただけたらと思えます。場所的には高速インターの近くでもありますし、活用の方法はたくさんあると思えますのでぜひ前向きに対応していただきたいと思えます。答弁も前向きな答弁だったと受け止めておりますので、ぜひマッチングもよろしくお伺いしたいと思えます。以上で質問を終わります。どうもありがとうございました。